

体験を通して学ぶ『防災』

2020年登別市市制施行50周年記念

令和元年度登別市総合防災訓練

7/20

7月20日(土)、鶯別地区を会場として、『令和元年度登別市総合防災訓練』(市、登別市防災会議主催)を開催しました。

市は、大規模な地震や津波などを想定し、市と関係機関の連携を確認するとともに、さまざまな展示や体験を通して、幅広い世代の方に防災意識を高めてもらうことを目的に、2年に一度、総合防災訓練を実施しています。

8時30分に震度5強の地震が発生したという想定のもと行なった鶯別地区一帯での津波避難訓練を皮切りに、鶯別小学校では、地震時の初期対応などを市や防災関係機関が演習を通して確認する実動訓練、多くの市民が主体となって避難所を運営し、市・避難者・地域住民それぞれの立場での役割を確認する避難所開設訓練などを行いました。そのほかにも、炊飯袋を使った調理や発電機の操作などを体験できるブースが数多く設置された今回の訓練には、防災関係機関に加え、鶯別保育所、鶯別小・中学校、登別青嶺高等学校の児童・生徒などをはじめとする市民の方など総勢約1千500人が参加し、災害に対する『備え』を学びました。



▲本所、設置した災害対策本部を指揮し、訓練を行った



▲津波避難訓練
訓練別小上子
別屋すた
台た



▲高し
町避難者
参加



▲サッカー教室に講師として訪れた(右から)宮澤裕樹選手、中野嘉大選手、チャナティップ選手

自分で作る楽しさを学ぶ

夏休み工作教室

8月1日(木)・2日(金)、郷土資料館で『夏休み工作教室』(市教育委員会主催)を開催し、参加した子どもたちはペットボトルを使ったスクリーナー船や風車かざぐるまなどを作りました。

この催しは、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』のメンバーがサポートし、一からおもちゃ作りに取り組むことで、ものづくりの楽しさを学ぶことができます。

初めて参加したという花森美咲さん(小学5年)は、「風車が回ったとき、虹に見えるように模様をつけました。うまくできてよかったです」と完成した風車を笑顔で見せてくれました。

8/1・2



▲風車を製作するためにペットボトルに目印の線を描く子ども

プロから学ぶサッカーの魅力

2020年登別市市制施行50周年記念

2019北海道コンサドーレ札幌

サッカー教室in登別

7月21日(日)、川上公園に北海道コンサドーレ札幌の選手3人とコーチを招き、サッカー教室を開催しました。

登別国際観光コンベンション協会、登別市文化・スポーツ振興財団、市教育委員会、登別ブランド推進協議会、株式会社コンサドーレが主催となり、市内の小学生を対象に行った同教室。参加した約100人の未来のサッカー選手たちは、第一線で活躍する選手たちとふれ合いながら、サッカーの楽しさを学ぶとともに、プロの技を見て、将来の夢をふくらませていました。

7/21